うつのみや路物語
～宮ストリートストーリー～

路（みち）の数だけ物語がある。うつのみやの路を紹介します。

宇都宮ユニオン通り商店街振興組合
理事長
松本　宗樹さん

ユニオン通り

▲1979年（昭和54年）のユニオン通り

東西約400メートルの間に、約90件の商店街が軒を並べているユニオン通り。英語で「団結」を意味するユニオンが名前の由来です。その名の通り、昭和27年に４つの町が団結して誕生しました。

私が子どもの頃のユニオン通りは、どこにでもあるような普通の商店街でした。八百屋さんや雑貨屋さんなどが立ち並び、大体の日用品や食材はこの通りでそろいました。１９７０年頃には、ユニオン通りで「七夕踊り」という盆踊りがありました。宇都宮にはたくさんのお祭りがありますが、私にとって祭りといえばこの「七夕踊り」でしたね。

平成に入ると、急激に通りの様子が変わりました。帰宅途中の高校生や周りにある専門学校の若者が集まるためか、古着屋やカフェ、アクセサリーショップなど個性豊かな店が増えました。市内外からもお客さんが訪れ、今では「宇都宮の原宿」と呼ばれています。イベントもたくさん行われ、特に１９９４年から３年間行われた「ユニオン・サンバ・カルナバル」はにぎわいを見せました。写真を撮るために脚立に上って人だかりの通りを見渡したときは、「ユニオン通りにこんなに人が来てくれている」と目頭が熱くなったのを覚えています。いまだに「ユニオン通りといえばサンバ」と言ってくれる人も多いです。現在では、時代のニーズに合わせ、若者向けにフリーマーケットなどを開催しています。

「ここでしか味わえない」「ここでなければ買えない」というような個性のあるお店が自然と集まり、この通りに住む人たちが自ら楽しんで、「ぜひ遊びに来て」と自信を持って言える。そんな通りになってほしいですね。